千葉大学法経学部 同窓会報

発　行
千葉大学法経学部同窓会
〒263-8522
千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL・FAX043-290-3655
ホームページアドレス
http://chiba-u-le-dousou.jp/

松田忠三 法経学部 教授 の退官に寄せて

松田先生は、本法経学部同窓会にとって、その創設当時から、学内理事として尽力され、現在の本同窓会としても大きな存在として、ご支援を頂いているところであります。

振り返って、本同窓会をみますと、平成10年3月に創設されましたが、当時の同窓会は、事実上運営されておらず、同窓生間での交流は、全く皆無であり、文理学部、人文学部、法経学部と連なる、法律系及び経済系の学科の集いはなく、在学生と卒業生の交流はもとより、卒業生にとっても、母校の状況は、特別な関心を持たない限りは、全く分からない状況でありました。

当時、法経学部長であった葉山 滉学部長は、平成5年を最後に休止状態になっている同窓会が、他学部同窓会と比較して、千葉大学唯一の社会科学系の学部として、幾多の有為な人材を送り出した学部の現状としては、極めて寂しいとの想いをいだき、母校の発展に寄与しうるような、確固とした同窓会を組織しようと、その構築にむけて、歩み始めました。

同窓会再生に尽力 長年の支援に感謝

同窓会長　吉永 英明

法学科では、多賀谷一照先生、経済学科では、松田 忠三先生が、中核となって、同窓会規約の整備を行うと共に、地元千葉県に在住のOBに対し、組織就任を依頼し、再生同窓会をスタートさせました。

再生同窓会は、誕生したものの、具体的な活動主体は、何もなく、それこそ、多賀谷、松田 両先生、その後 総合政策学科 宮崎 隆次先生が、お忙しい中、時間を割いて、その運営の労をとっていただきました。

その後、多賀谷、宮崎両先生は、仕事の関係から同窓会への係わりが出来なくなり、松田先生お一人が、本同窓会の運営の中核となって、支えていただきました。（現在、経済学科 大塚 成男先生にご支援頂いております。）

本同窓会は、本年で、15年目を迎えますが、それこそ、かつては、松田先生が、お一人

（2面に続く）

で総会に臨まれるような状況もあり、松田先生に本同窓会が、常に支えられてきたこともあり、会長として、誠に、深く感謝する次第であります。

そのほか、平成13年からは法経学部長に就任され、同窓会の基盤を確固たるものとしていただいたほか、大学校内に同窓会事務所を確保するために、特別にお骨を折っていただくなど本同窓会としては、松田先生のご尽力なしには現在の存続にも厳しいものがあったと思うところであります。

松田先生がこの度、退官されることになりましたが、これからも千葉大学で名誉教授としてご講義をされると伺っております。今後とも温かいご指導、ご支援を本同窓会としてお願いしたいと思う次第であります。

最後に、松田先生のますますご活躍とご健勝をご祈念申し上げて、お礼の言葉といたします。

◇松田　忠三先生の近況

松田先生は退官後も名誉教授として毎週水曜日、千葉大学で教鞭を執っておられます。

また、グランドフェローとして学生からの修学支援、就職等の相談にも応じられております。このため、水曜日以外にも千葉大学にいることが多いと話されており、同窓会運営で気軽に相談に応じていただけると期待しております。

先生を介して知り合いの輪

法学科卒業の私は大学時代、先生とは接点がありませんでした。ですので、私にとって先生の思い出は卒業してから後となります。

大学を卒業してからも、年に一度開催される学部同窓会や校友会には、なるべく顔を出すようにしていました。そして、そのほとんどの席に、松田先生はいらっしゃっていました。学部同窓会では、同じ学部とは言え年齢の離れた先輩や後輩が多い中、知り合いがほとんどいなかったという時もあったのですが、先生はいつも気軽にお声をかけて下さいました。そして先生とお話させて頂く中で、自然に知り合いも増えてきました。

私は同窓会の存在というのは、非常に意味のあるものであると思っています。そのことは、在学中というよりもむしろ、卒業してから後にだんだんと噛み締めるように分かってきました。例えて申し上げるならば、親の愛情（ありがたみ）は、自分がある程度大人になってからでないとなかなか理解しにくいものと申しますが、私の場合、非常にそれに近いと思います。

ここで申し上げました親というのは、もちろん千葉大学法経学部です。そして、そのありがたみは、先生を介して様々な年代のＯＧ、ＯＢの方々や後輩たちと接する中で、自分の中に自然に浸透してきました。

同窓会では、普段、接点のない様々な職種の方々と接することができます。そして、仕事の話や家族の話等、自分が知らない、あるいはこれまで経験のない様々なお話を伺うことができます。また、会社等をすでにご退職されているＯＧ、ＯＢの方々もいらっしゃいますが、そういった方々からは、味わい深い人生の重み、また

（3面に続く）

楽しみ等、貴重なお話をご教示賜ることができます。

普段、仕事中心の生活を送っていると、なかなかこのような機会に恵まれることは少ないと思います。だからこそ、そのような機会をこれからも大切にしたいと思うようになってきました。

3年前に学部同窓会の中で年次幹事という制度が発足した際にも、先生から直接お声掛け賜り、引き受けさせて頂くことで気持ちを決めました。大変感謝致しております。千葉大学を退官されましても、これからも今までと同様、学部同窓会、校友会、年次幹事会等に御足を運んで頂けましたら、非常にありがたく、また大変嬉しく存じます。

ありがとうございました。そして引き続き、これからもどうか宜しくお願い申し上げます。

（平成5年卒　越川　剛）

最終講義に20人駆けつけ 衝撃の研究室見学ツアー

本年3月いっぱいで定年退職された松田忠三先生の最終講義が3月24日、千葉大学法経学部で行われました。当日は年度末近くの土曜日で小雨日和にも拘わらず20名以上のゼミ生、OBが千葉大学のキャンパスに集まり、先生の最終講義を受講しました。

講義の中で「パレート最適」という懐かしい経済の専門用語が出てきたときは、30年以上も前のこの教室に一瞬でタイムスリップしていました。当時は現在の最新鋭の設備が整った教室ではなく、冷暖房もないただ大きな黒板と机、椅子だけの教室で、先生の財政学の講義についていけずいつも居眠りをしていたことなどが懐かしく思い出されました。

講義の最後には花束が贈られ、先生の研究室の見学ツアーも行われました。昔ゼミで使われていた懐かしい研究室ですが、今や本と書類の山に阻まれ部屋の中に入ることさえ困難な状況に唖然とするとともに「先生の部屋らしい」と爆笑に包まれ、記念撮影までしました。

続いて行われたお祝いの会では最後のゼミ生とOB一人一人からお祝いの言葉と近況報告があり、松田先生も感無量のご様子でした。

先生は学問には厳しい半面、馬や牌並べのゲームでも熱心にご指導され、その後の人生の糧となるお言葉をいただいた等、熱い感謝の言葉が続き、先生の一見ぶっきらぼうな様相ながら実は鋭い観察眼と一人一人に親身に接してくださる温かいお人柄が改めて浮き彫りになりました。

先生には退職されても、いつまでも私たちの人生の師としてお元気でおられ、またの機会に再会できることを念じております。

（昭和55年卒　板橋 史夫）

夢を追って～OB仕事物語り

幼児期の自然体験
絵画の道に邁進！

画家
石井　基善 氏
（昭和44年文理学部 法律専攻卒）

私は、15歳に父親が亡くなるまで千葉市内にあった農林省畜産試験場内で過ごしました。現在は県立青葉の森公園となり、市民の憩いの場となり、子どもたちの歓声が飛び交っています。終戦直後の時で、ここで過ごした6歳ごろまでの幼児期に私はその後の人生に決定的な影響を受けたと思っています。

父は、ここの加工部室長をしていましたが、研究員や助手に囲まれ、とりわけ場内のんびりとした牧場風景、牛馬ほかたくさんの家畜、飼料作物、そして雑木林などの自然景観がたくさん残されていましたから、子ども仲間と終日遊び回りました。

千葉県庁に入庁し、36年間淡々と勤め上げ、2年の延長期間を経て、完全退職を迎えたわけです。

公務員生活を続けながら、私は不完全燃焼の気分から抜け出せなかったのですが、その原因が何であるかは明らかでした。正面から見ようとしなかっただけでしたから。

30歳での結婚を機会に絵筆を取りました。高校、大学と絵画クラブに所属していましたので、経験はありましたが、2足のわらじで行くことが自然の選択でした。

石井　基善　氏

これは、子ども時代の試験場の体験が強く作用していることは申すまでもありません。

とりあえず、県庁スケッチ会に入会。30代の10年間は自然観察に充てた助走期間だったように思います。40歳から制作ペースを上げ、毎日描くようになったのです。勤務が終わり、帰宅してから1時間半程度でしたが、これで一作業ができるのです。土・日曜日は5時間ぐらい、週休2日制になって楽になったのを覚えております。

絵画に対する私の基本方針は、風景と人物を二本柱として、その調和を求めることと、原風景を追求してみたいということです。最近では加えて、感性の城を築きたいと思っています。

59歳（2003年）の時に、それまでの絵に関する私の考え方をまとめた絵画論「我流私論」（早稲田出版）を出しました。

（5面に続く）

60歳の定年を迎え、わらじの片方を脱いでから、絵画一筋に毎日を過ごしております。食も一応保証され、一日絵を描いていても誰にも非難されることもなく、自己実現にすべてを傾注する幸せを感じます。

ブルガリアを手始めに、海外取材にも積極的に出かけ、フランスにはパリで2回、各3か月のロングステイを実施。盛りだくさんに楽しい経験をしました。

今、ロングステイを中心にした取材経験を(仮称)「続我流私論」として執筆中です。私の絵がより多くの方々に認知されるよう、もうしばらく頑張ってみようと思っています。

私のような生き方がお薦めできるとは思いませんが、人生寄り道をしたり、方向を変えたりする中で、いろいろな経験(甘いも辛いも)をすることにより、人生が豊かになることは間違いないことと思っております。

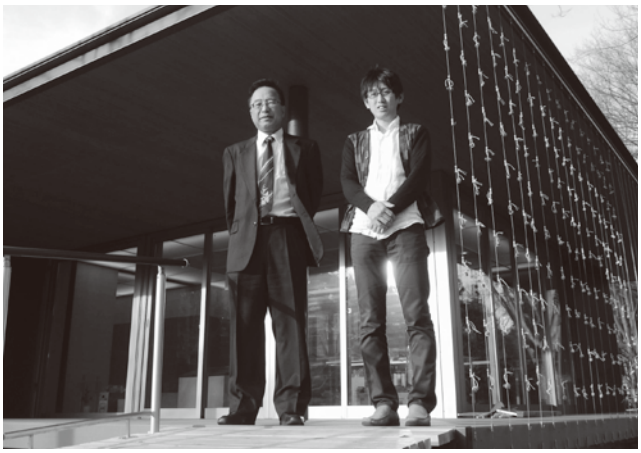
「パリの印象」

未来の太陽光住宅

千葉大チームが世界大会に参加

ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012

千葉大学の建築系学生を中心とするチームが太陽光などを活用して都市で農業的な暮らしができる次世代型住宅「おもてなしハウス」を開発、西千葉キャンパス内に完成しました。この「おもてなしハウス」を引っさげ、9月にスペインで開催予定の太陽光利用の住宅設計に関する国際学生コンペ「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」に日本代表として出場することになりました。



ソーラー・デカスロンの住宅の前に立つ同大大学院工学研究科・川瀬 貴晴 教授(左)と学生リーダーの同科博士課程1年・田島 翔太さん

ソーラー・デカスロンは2人家族の生活に必要なエネルギーをすべて太陽光でまかなう住宅を展示する国際大会。今秋の大会には各国から20チームが参加しますが、日本からの出場は千葉大学チームが初めて。

おもてなしハウスは、日本の伝統的価値観と最先端技術を取り入れた次世代型住宅。瓦屋根と一体となったブロック型のソーラーパネルと太陽熱で、2人分の電力を賄います。家庭内で野菜が育てられる小型植物工場や壁面緑化など自然と調和するライフスタイルを提案します。

グランプリを期待したいですね。

夢を追って～OB仕事物語り

前例踏襲から脱皮へ 時代感覚研澄ます

千葉県庁防災危機管理部長
吉田　雅一 氏
（昭和54年卒）

最近は髪の毛に白いものが目立つ歳になりました。そんな私が大学に入学したのは1975年。学生運動が終息し、世間では当時の学生を無気力・無関心・無責任、いわゆる「三無主義」と評していました。いつの世も若者はいろいろと言われるものです。

経済情勢も、授業ではハーバード大学のエズラF・ヴォーゲルが著した「ジャパン・アズ・ナンバーワン」を取り上げていましたが、高度成長時代に陰りが見え、1978年にはオイルショックが起きました。世間的にはトイレットペーパーの買い占め事件と言った方が分かりやすいかもしれません。

こんな時代背景の中で、千葉県庁に入庁しました。私の県庁での最初の所属は統計課でした。GDPの県版を計算することになりました。前例にとらわれない仕事が最初だったことは、県庁生活の上でラッキーでした。

その後、地方課、財政課、消防地震防災課などを勤務することになりましたが、新しい仕事、何年かぶりの見直しなど、あまり過去を振り返る必要のない仕事をすることが多かったのは、偶然だと思いますが、運にも恵まれ今からみれば面白いものでした。

現在は東日本大震災からの復旧・復興に関わる業務を行っています。もちろん、放射能問題をはじめ前例はありません。県行政は許認可行政が多いこともあり、前例踏襲というイメージが強いと思います。

しかし、最近の社会経済情勢の変化はすさまじく、県行政もその真っただ中にいます。高齢化、少子化は今後の社会保障の仕組みに大きな影響を与えるだろうし、経済の低迷は税収減をもたらし、県民サービスを維持することさえ困難になります。まさに公務員も時代感覚、危機管理能力を研ぎ澄ますことが重要になってきています。

私自身も意識改革をしなくては、と感じる日々です。私の県庁人生も残りわずかですが、将来にツケを残さないよう、過去や未来を考えず「今を生きる」の気持ちを胸に、「やさしさ」を大切にし、悔いのないよう淡々と日々を過ごしていきたいと思う昨今です。

コラム同窓会

㈱エルシープリント
代表取締役
瀬尾　裕美　さん
（平成15年卒）

会報で蘇る青春の記憶

「なんか届いてるよ」

母の声に何気なく受け取った大きめの茶封筒。普段郵便物は中身も見ずに捨てることも多いのだが、ふと手に止まったこの封筒に目をやると懐かしい文字が飛び込んできた。

「千葉大学法経学部同窓会」

大学を卒業してから早10年。日常の生活に追われる中で頭の片隅に追いやられていた淡い記憶がゆっくりと紐解かれていく。受け取ったそれを急いで開けると一冊の会報が入っていた。

「同窓会で会報なんて出してたんだ…」などとぼんやり考えながらパラパラとページをめくる。その中の1ページで思わず手が止まった。

紙面の中で営業スマイルをおくる一人の男性。そこには学生時代、同じサークルに所属し青春を謳歌した友がいた。

思いがけない友との卒業以来の再会に心が弾み、すぐに携帯電話を取り出し彼にメールを送った。何年も連絡を取っていなかったので連絡先が変わっていても不思議はなかったが、携帯電話の画面は「メール送信しました」の文字。そして何年もの時を飛び越えて昨日まで会っていたかのような返信がすぐに私の携帯電話を鳴らした。

会報を隅々まで読み同窓会の活動に興味を持ち、また何か自分にもお役に立てることがあるのではないかと考えた私は、紙面の彼に再度連絡し同窓会の理事を紹介してもらった。

同窓会の活動、また数々の卒業生・現役の学生という同じ学舎で人生の一番大切な時を過ごしたあるいは過ごしている同志を「繋ぐ」という役割に感銘を受け、年次幹事を引き受け同窓会の運営に携わらせていただくこととなった。

卒業以来あまり気には留めていなかったが、「千葉大学法経学部卒業」の肩書きは私の心の深くでは無意識に拠り処となっていると今改めて感じる。当学部の長い歴史の1ページとはなれずとも一文字の名前を刻めたことは何よりの財産ではないだろうか。

この会報を読んで、もし興味をもたれた方がいらっしゃれば同窓会にぜひ参加していただきたい。一つの簡単なアクションを起こせばどんどん世界は広がっていく。新たな出会いが人生をより豊かなものにしてくれる。そのひとつの舞台として同窓会へ。

本年度の総会は7月14日(土)に開催致します。

平成24年度同窓会総会を下記のとおり開催いたします。
会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

1 日　　時　平成24年7月14日(土)
　　12時10分　受付開始
　　13時　総会
　　14時　記念講演
　　15時30分　懇親会

2 会　　場　総会･講演会　人文社会科学研究棟2階
　　マルチメディア講義室
　　懇親会　けやき会館1階コルサ

3 記念講演　**天野 平八郎** 氏(昭和34年、文理学部卒)
　　東北大学総長顧問
　　宮城県自動車会議所会長
　　演題　**「高速道路料金制度への提言と東北の生産基盤強化」**

4 懇親会参加費　3,000円
　　当日総会受付の際お支払いください。

お手数ですが準備の都合上、同窓会総会及び懇親会の出席･欠席について、Fax又はEメールにて6月23日(土)まで、同窓会事務局宛ご連絡いただくようお願い申し上げます。なお、当日の参加も歓迎いたします。また、住所等の変更のあった方は、併せてご連絡をお願いいたします。

●**Fax番号　043-290-3655**(下記の様式でお送りください)
●**Eメール　dosokai@le.chiba-u.ac.jp**(件名[同窓会]でお願いします)

総会(出席･欠席)　懇親会(出席･欠席)

出席又は欠席に○をつけてください

(ふりがな)
●氏　　名
●新　住　所　(住所変更のあった方のみ)
●新電話番号　(電話番号の変更のあった方のみ)

昭和･平成　　年　　学部卒

(Fax番号　043-290-3655)

ご意見･ご要望もお寄せ下さい